ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７
（ネットワークステーション）
機　能　解　説　書
ＢＳＣ編

第 4.2 版

セイコープレシジョン株式会社

Ⓒ１９９７－２００８　セイコープレシジョン株式会社

セイコープレシジョン株式会社の文書による許可なく、本書の全部または一部の複製、転載および改変等を行うことはできません。
本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。

本　書　の　使　い　方

・本書は、ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７　ネットワークステーションのＷＡＮ側のＢＳＣ系標準パラメータに関する機能解説書です。標準パラメータとは弊社が提供するユーテリティにて設定できるパラメータで、この範囲内で使用する場合は、お客様にてセットアップができます。パラメータには標準パラメータの他にオプションパラメータがあり、オプションパラメータの設定が必要な場合は、弊社ＣＥによる派遣インストールまたは弊社内にてのプレインストールが必要となります。

・本書の読者は、ＴＣＰ／ＩＰプロトコルとネットワークおよび通信手順等について基本的な知識を必要とします。

・ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７　ネットワークステーション関連のマニュアルには、本書の他に「取扱説明書」、「導入／運用の手引」、「機能解説書　全体概要編」、「機能解説書　ＢＳＣ系オプションパラメータ編」「機能解説書　他プロトコル編」があります。

イーサネット（Ｅｔｈｅｒｎｅｔ）は、米国ゼロックス社の登録商標です。
その他の会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

「空白」

－目　次－

第１章　概要 1

１．１　特徴 1
１．２　位置付け 3
１．３　基本機能 5
（１）プロトコル変換機能 5
（２）通信制御機能 5
（３）監視機能　（ＳＣ－８２７７のみ） 6
（４）切替機能　（ＳＣ－８２７７のみ） 6
（５）ホットスワップ機能　（ＳＣ－８２７７のみ） 6

第２章　機能解説 7

２．１　基本伝送仕様 7
２．２　ハードウェアインターフェイスと伝送速度 8
２．３　伝送制御コード 10
２．４　メッセージ・フォーマット 11
（１）伝送制御キャラクタ（ＴＴＣ） 11
（２）一般電文 11
２．５　時間監視 12
２．６　再送カウンター 13
２．７　伝送制御マトリックス 14
（１）全銀 14
（２）ＪＣＡ 14
（３）ＢＳＣ 14
２．８　動作シーケンス 15
（１）公衆接続　発信（ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７→相手機器） 15
（２）公衆接続　着信（ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７←相手機器） 16
（３）電文入力 17
（４）電文送信（ＲＶＩ受信　ＪＣＡ／ＢＳＣプロトコル使用時） 18
（５）電文送信（デブロッキング） 19
（６）電文受信（ブロッキング） 20
２．９　通信設定項目 21
（１）プロトコル 21
（２）通信速度 21
（３）適用回線 21
（４）透過／非透過 21
（５）局タイプ 21
（６）ヘッダー 21

（７）着呼制御 21
（８）着呼通知入力タイミング 21
（９）入力確認センス 21
（１０）発呼完了ステータス 21
（１１）通信異常終了通知 22
（１２）オープン／クローズ制御 22
（１３）全銀／ＪＣＡ自動切替 23
（１４）ＲＶＩ受信時処理 23
（１５）着呼時のキャリー音送出、キャリー音送出時間 23
（１６）Ｖ２５ｂｉｓ付加文字 23
（１７）送信時ＣＤ　ＯＦＦ検出 23
（１８）送信ＳＹＮＣ数 23
（１９）伝送制御コード、誤り制御方式 23
（２０）ＲＶＩ、ＴＴＤ、ＷＡＣＫの使用 23
（２１）タイマー、カウンタ 23
（２２）ブロッキング、デブロッキングの設定 23
（２３）ＲＳ制御 23
（２４）端末速度固定 24
（２５）自アドレス 24
（２６）自サブアドレス 24
APPENDIX-A（規約） 25

第１章　概要

本章は、ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７　ネットワークステーションの概要を記述しています。

１．１　特徴

ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７には以下の特徴があります。

（１）　プロトコル変換機能

ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７は、ＢＳＣ系手順、ＬＡＰＢ、Ｘ．２５、無手順等を持つ端末システムと、ＴＣＰ／ＩＰネットワーク上のホストとの中継を行います。
これにより、BSC 等のデータリンク層の手順を意識することなく、ホスト側のアプリケーションを作成することができます。

（２）　各種メンテナンス機能

ＰＣ、または前面の簡易キーボードと表示パネルを使用して、設定やメンテナンスが可能です。
設定変更や障害時の切り分けが容易に行えます。

（３）　ＩＳＤＮ直収機能

Ｉ．４３０／Ｖ．１１０インターフェイスをサポートします。
ＩＳＤＮや高速ディジタル回線に、外付けのＴＡなしで直結できます。
ＴＡやそれと接続するケーブルが不要なので、導入コストやラックスペースが削減できます。
また、ＴＡの詳細な設定が不要となるので、導入作業が軽減されます。
ＵＳＴ内部でＴＡの監視を行うので、より信頼性の高いシステムが構築できます。

（４）　表示装置の変更

表示装置が従来の「LCD」から「VFD」に変更になりました。
それに伴い、輝度調整用のキーボードオペレーションを追加しました。
イニシャル時は設定されている輝度で VFD 表示を行います。
輝度が設定されていない場合には、５０％輝度（デフォルト）で表示を行います。

（５）　外部 HUB とのリンク状態監視

UST が接続する外部 HUB とのリンク状態を、１秒間隔で監視します。
リンク状態がアップ→ダウン、またはダウン→アップに変化したら、ログを出力します。
また、リンク状態がダウンからアップ状態に変化した場合、各通信基板、および MCU 基板から、Gratuitous ARP（PowerON ARP と同一の ARP）を送信します。

（６）　SNMP エージェント機能

SNMP v1 に準拠したエージェント機能が使用できます。
但し、SNMP マネージャからの管理情報取得要求のみをサポートし、管理情報変更要求、トラップ通知はサポートしていません。
SNMP マネージャは、最大 3 件まで登録できます。

（７）　ＳＮＴＰクライアント機能

タイムサーバに対して、設定した日付に１日１回時刻要求を行い、内蔵時計の時刻を修正することができます。時刻要求日は、1ヶ月あたり最大５日まで設定できます。

通信基板における時刻修正精度は、±１秒です。

（８）　セキュリティ機能

セキュリティ機能として、以下の３つの機能を追加しました。

① キーボード・ロック機能

② LAN 経由メンテナンスコマンド・ロック機能

③ IP アドレス非表示機能

ＳＣ－８２７７には上記の特徴に加えて、以下の特徴があります。

（１）　最大４８ポートのサポート

通信基板を１２枚装着することにより、ＷＡＮ側最大４８ポートの構成が可能です。

多ポートを集約し、ラックマウント時で弊社製ＳＣ－８２５７と比較して、最大５３％スペース効率が向上します。

（２）　フェイルセーフ機能

監視切替制御基板（ＭＣＵ）による自動切替機能により、フォールバック・スイッチと連動して通信基板故障時に予備基板と自動的に切り替えます。

また、電源部は各通信基板に搭載しているので、電源故障時の影響は最少化できます。

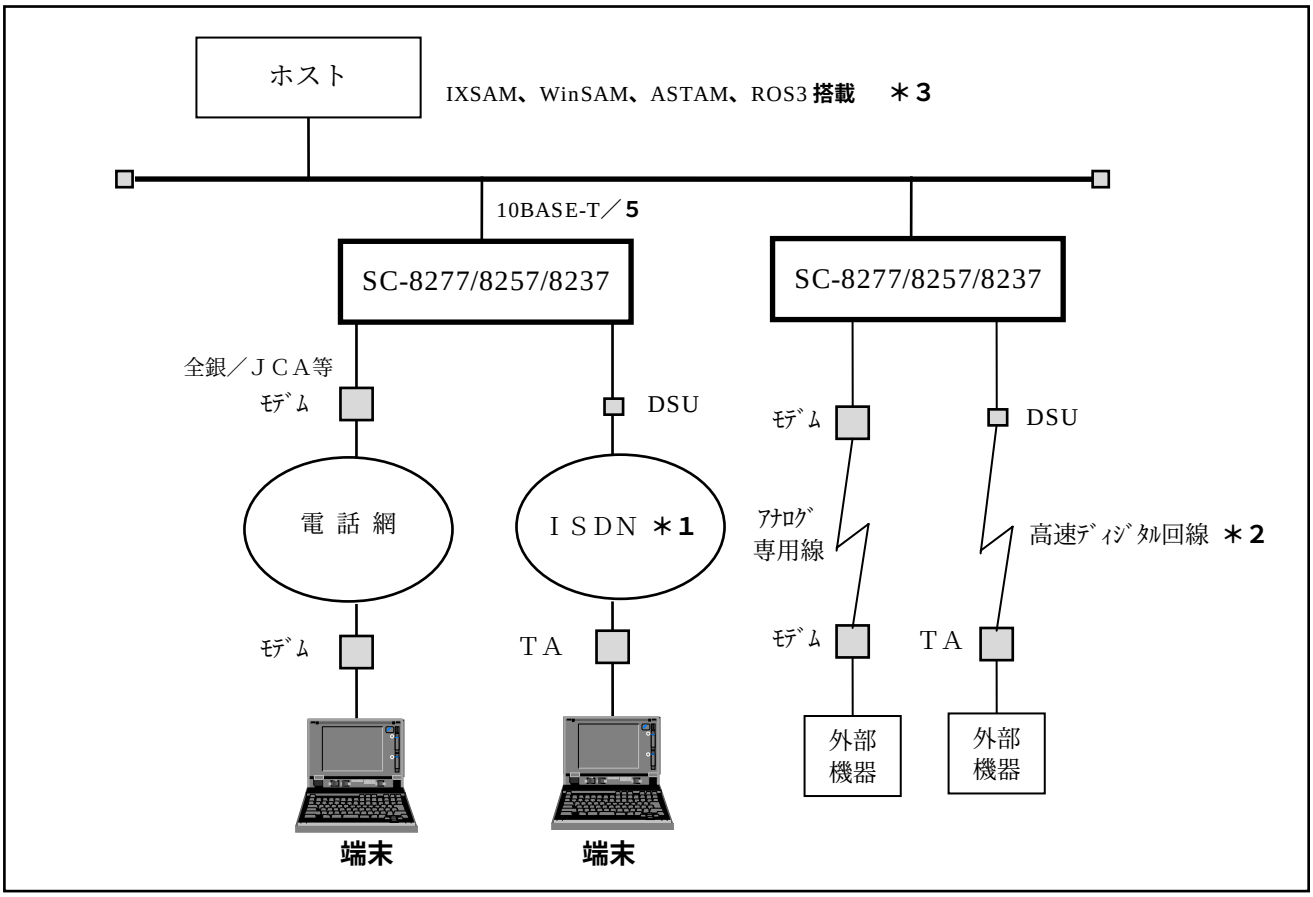
（３）　ホットスワップ機能

システム稼働中に通信基板の増設、交換が可能です。

１．２　位置付け

ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７は、ＴＣＰ／ＩＰプロトコルを持たない装置を、ＴＣＰ／ＩＰネットワークに接続するネットワークサーバです。

図　１．１　システム構成

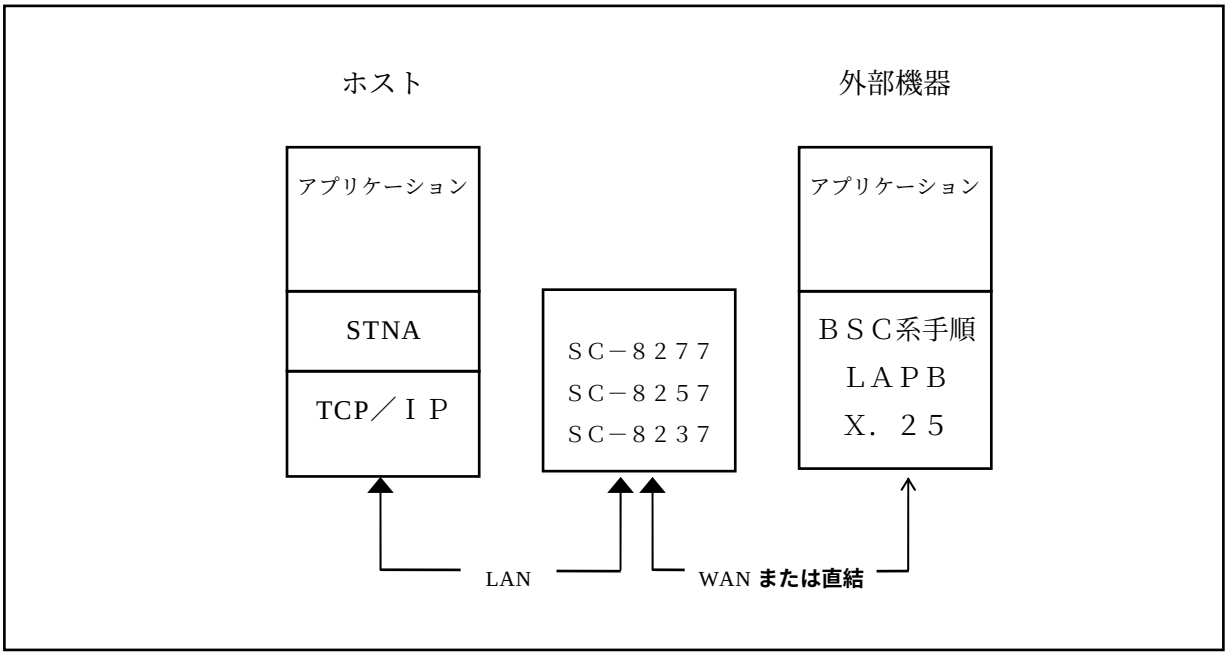


＊1　**ＩＳＤＮとの接続は、Ｉ．４３０／Ｖ．１１０用基板の場合、ＴＡは不要です。**
但し、外付けのＤＳＵは必要です。

＊２　**高速ディジタル回線との接続は、Ｉ．４３０／Ｖ．１１０用基板の場合、ＴＡは不要です。**
但し、外付けのＤＳＵは必要です。

＊３　**ＩＸＳＡＭ　：ＵＳＴ制御用のミドルウェア。ＵＮＩＸ用。**
ＷＩＮＳＡＭ：ＵＳＴ制御用のミドルウェア。Ｗｉｎｄｏｗｓ用。
ＡＳＴＡＭ　：ＵＳＴ制御用のミドルウェア。ＡＳ４００用。
ＲＯＳ³　　：全銀／ＪＣＡ用の集配信パッケージ。

図　１．２　位置付け



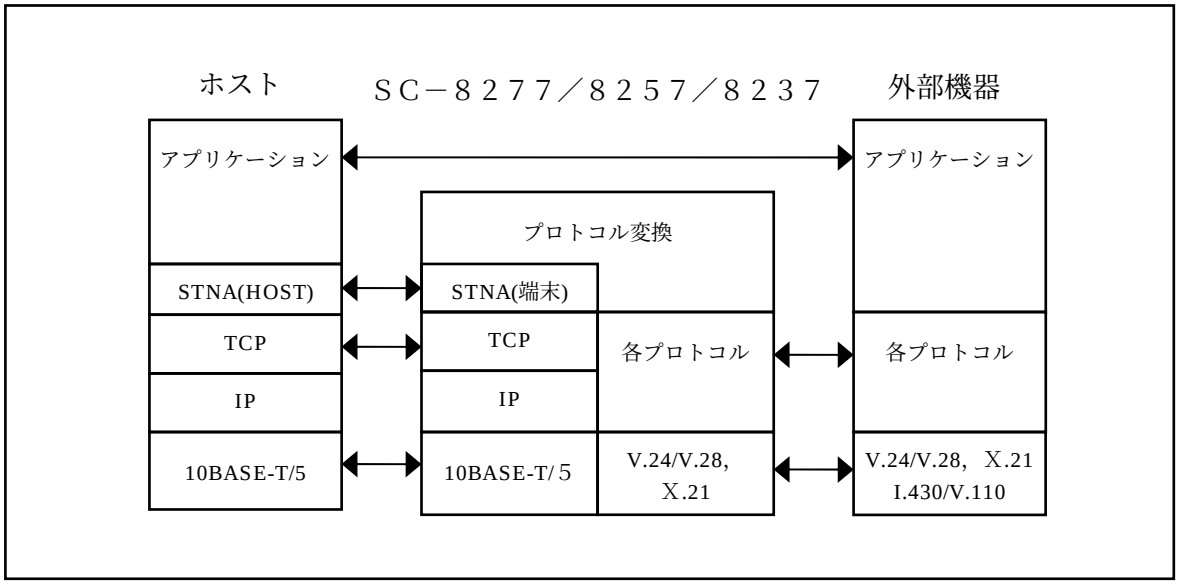
ＳＴＮＡとは、弊社独自のネットワークステーション制御用のプロトコルです。

１．３　基本機能

（１）プロトコル変換機能

ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７は、ＢＳＣ系手順、ＬＡＰＢ、Ｘ．２５、無手順等を持つ端末システムと、ＴＣＰ／ＩＰネットワーク上のホストとの中継を行います。
これにより、ＢＳＣ等のデータリンク層の手順を意識することなく、ホスト側のアプリケーションを作成することができます。

図　１．３　プロトコル構成



（２）通信制御機能

ＷＡＮ側の通信制御機能に関しては種々の設定が可能です。詳細は３章を参照して下さい。
その他、アプリケーション上の制御に関する事項の設定が可能です。

ヘッダー	あり／なし
着呼制御	あり／なし
入力確認センス	使用／不使用
ＲＶＩ受信処理	正常完了／不能完了

（３）監視機能　（ＳＣ－８２７７のみ）

監視切替制御用の専用基板（以降、ＭＣＵ基板）により、各通信基板の状態が監視できます。
各基板の稼働状況をホストに通知することができます。
また、ファン状態の監視を行います。

（４）切替機能　（ＳＣ－８２７７のみ）

ＭＣＵ基板により、故障基板を自動的に予備の基板に切り替えることができます。
また、前面のキーボードから手動での切替も可能です。

（５）ホットスワップ機能　（ＳＣ－８２７７のみ）

稼動中に基板の交換、増設が可能です。

（１）、（３）、（４）、（５）の詳細に関しては「機能解説書　全体概要編」を参照して下さい。

第２章　機能解説

本章は、ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７のＢＳＣ系標準パラメータについての解説を記述しています。

ＷＡＮ側のプロトコルとしては、全銀、ＪＣＡ、ＢＳＣ（ＢＳＣ１／ＢＳＣ２）をサポートしています。メンテナンスユーティリティを使用することにより、上記プロトコルの変更、およびタイマー／カウンター等の調整が可能です。

２．１　基本伝送仕様

ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７の基本伝送仕様を表３－１に示します。

表２－１　基本伝送仕様

No.	項　　目	内　　容	標準設定値　*1		
			全銀	ＪＣＡ	ＢＳＣ
１	適用回線	公衆回線／専用線	公衆	公衆	専用
２	伝送速度　*2	1.2k / 2.4k / 4.8k / 9.6k / 19.2k/48k/64kbps/128kbps	2.4k	2.4k	9.6k
３	回線構成	ポイントツーポイント	←	←	←
４	通信方式	半二重通信方式	←	←	←
５	同期方式	独立同期方式（ＳＹＮ同期方式）	←	←	←
６	接続制御方式	コンテンション方式	←	←	←
７	伝送制御コード	ＥＢＣＤＩＣ	←	←	←
８	伝送形式	透過／非透過	透過	非透過	透過
９	伝送方式	ＥＴＢ列信／ＥＴＸ列信	ETB 列	ETX 列	ETB 列
１０	応答方式	ＡＣＫ$_0$／ＡＣＫ$_1$交互応答およびＮＡＫ応答	←	←	←
１１	誤り制御方式	ＣＲＣ方式（$X^{16}+X^{15}+X^{2}+1$）	←	←	←
１２	ＲＳ信号	送信時のみＯＮ／常時Ｏｎ	送信時	送信時	常時
１３	伝送ブロック長	４０９６バイト以内	3000	←	←
１４	局タイプ	優先局／非優先局	非優先	優先	優先
１５	発着呼制御手順	ＩＴＵ－Ｔ勧告Ｖ．２５ｂｉｓ	←	←	無

*1　標準設定値とは、通信プロトコルで各プロトコルを選択した場合に展開される設定内容です。

*2　伝送速度の制限は、２．２を参照して下さい。

２．２　ハードウェアインターフェイスと伝送速度

ＵＳＴの各機種と各通信ボード、インターフェイス、使用回線によって以下の制限があります。

（1）ＳＣ－８２３７

［Ｖ．２４／Ｖ．２８、Ｘ．２１］

使用ポート数	通信速度の制限	備考
１ポート	６４ｋｂｐｓ以下	
２ポート	各ポート４８ｋｂｐｓ以下	

［Ｉ．４３０／Ｖ．１１０　ＩＳＤＮ回線使用］

使用ポート数	通信速度の制限	備考
１ポート	６４ｋｂｐｓ以下	
２ポート	各ポート４８ｋｂｐｓ以下	

［Ｉ．４３０／Ｖ．１１０　高速ディジタル回線使用］

使用ポート数	通信速度の制限	備考
１ポート	６４ｋｂｐｓ～４８ｋｂｐｓ	
２ポート	使用不可	回線側の制限です。

（2）ＳＣ－８２５７／７７

［Ｖ．２４／Ｖ．２８、Ｘ．２１］

使用ポート数	通信速度の制限	備考
１ポート	６４ｋｂｐｓ以下	
２ポート	各ポート４８ｋｂｐｓ以下	
３ポート以上	各ポート１９．２ｋｂｐｓ以下	

［Ｉ．４３０／Ｖ．１１０　ＩＳＤＮ２回線使用］

使用ポート数	通信速度の制限	備考
１ポート	６４ｋｂｐｓ以下	
２ポート	各ポート６４ｋｂｐｓ以下	ＣＨ１と２を使用する必要があります。
３ポート以上	各ポート１９．２ｋｂｐｓ以下	３ポートの場合は、ＣＨ１、２と３を使用する必要があります。

［Ｉ．４３０／Ｖ．１１０　高速ディジタル２回線使用］

使用ポート数	通信速度の制限	備考
１ポート	１２８ｋｂｐｓ以下	
２ポート	４８ｋｂｐｓ以下	ＣＨ１と３を使用する必要があります。
３ポート以上	使用不可	回線側の制限です。

［Ｉ．４３０／Ｖ．１１０　高速ディジタル１回線とＩＳＤＮ１回線使用］

使用ポート数	通信速度の制限	備考
２ポート	４８ｋｂｐｓ以下	ＣＨ１と３を使用する必要があります。 高速ディジタル回線側は４８ｋｂｐｓのみ
３ポート	各ポート１９．２ｋｂｐｓ以下	ＣＨ１、３、４を使用する必要があります。
４ポート	不可	回線側の制限です。

２．３　伝送制御コード

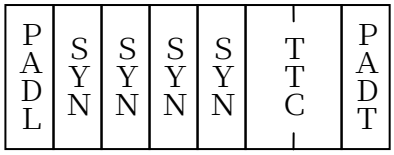
ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７で使用する伝送制御コードを表３－２に示します。

表３－２　伝送制御コード一覧

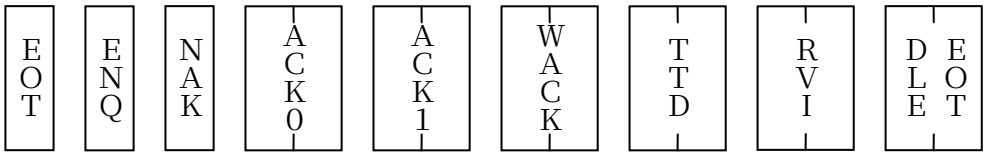
No.	記号	コード (HEX)	使用　有：○　無：－			意　　味
			全銀	ＪＣＡ	ＢＳＣ	
１	ＳＹＮ	３２	○	○	○	同期信号
２	ＤＬＥ	１０	○	○	○	伝送制御拡張
３	ＳＴＸ	０２	○	○	○	テキスト開始（透過モード時はＤＬＥ・ＳＴＸ）
４	ＥＴＢ	２６	○	－	○	ブロック終結（透過モード時はＤＬＥ・ＥＴＢ）
５	ＥＴＸ	０３	○	○	○	テキスト終結（透過モード時はＤＬＥ・ＥＴＸ）
６	ＡＣＫ０	１０・７０	○	○	○	肯定応答
７	ＡＣＫ１	１０・６１	○	○	○	肯定応答
８	ＮＡＫ	３Ｄ	○	○	○	否定応答
９	ＥＯＴ	３７	○	○	○	伝送終結
１０	ＥＮＱ	２Ｄ	○	○	○	接続要求または応答督促
１１	ＷＡＣＫ	１０・６Ｂ	○	○	○	送信待機要求
１２	ＴＴＤ	０２・２Ｄ	－	○	○	テキスト一時遅延
１３	ＲＶＩ	１０・７Ｃ	－	○	○	反転中断
１４	ＤＬＥ・ＥＯＴ	１０・３７	○	○	－	公衆回線切断
１５	ＰＡＤＬ	３２	○	○	○	リーディングパッド
１６	ＰＡＤＴ	ＦＦ	○	○	○	トレーリングパッド

２．４　メッセージ・フォーマット

（１）伝送制御キャラクタ（ＴＴＣ）



ＴＴＣとしては、以下の種類があります。



（２）一般電文

①非透過電文

②透過電文

２．５　時間監視

ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７で使用する監視タイマーについて表３－３に示します。

表３－３　監視タイマー一覧

NO	タイマー名	意　　味	標準設定値（秒）*1		
			全銀	ＪＣＡ	ＢＳＣ
１	ＴＭ０	呼出ＥＮＱ送信後応答待ち	３	３	３
２	ＴＭ２	入力確認センス待ち	２５５	２５５	２５５
３	ＴＭ３	電文送信後応答待ち	３	３	３
４	ＴＭ６	ＡＣＫ送信後応答待ち	２４	２４	２４
５	ＴＭ１３	電文／応答督促ＥＮＱ受信後ＷＡＣＫ送信まで	２	２	２
６	ＴＭ１４	相手局の応答受信後ＴＴＤ送信まで	－	２	２
７	ＴＭ２０	呼出ＥＮＱ待ち（無通信タイマー）　*2	３０	３０	６０

＊１　標準設定値とは、通信プロトコルで各プロトコルを選択した場合に展開される設定内容です。

＊２　公衆回線設定時のみ有効です。

２．６　再送カウンター

ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７で使用する再送カウンターについて表３－４に示します。

表３－４　カウンター一覧

NO	タイマー名	意　　味	標準設定値（回）*1		
			全銀	ＪＣＡ	ＢＳＣ
１	ＲＴ１	呼出ＥＮＱ再送回数（無応答時）	７	７	７
２	ＲＴ２	呼出ＥＮＱ再送回数（ＮＡＫ受信時）	７	７	７
３	ＲＴ４	電文送信後ＮＡＫ受信による電文再送回数	７	７	７
４	ＲＴ５	電文送信後無応答による督促ＥＮＱ再送回数	７	７	７
５	ＲＴ６	電文送信後ＷＡＣＫ受信による督促ＥＮＱ再送回数	１４	１４	３１
６	ＲＴ７	呼出ＥＮＱ送信後ＷＡＣＫ受信による呼出ＥＮＱ再送回数	１５	７	３１
７	ＲＴ１３	ＴＴＤ受信によるＮＡＫ送信回数	－	１５	３１

＊１　標準設定値とは、通信プロトコルで各プロトコルを選択した場合に展開される設定内容です。

２．７　伝送制御マトリックス

（１）全銀

全国銀行協会連合会制定「全銀協標準通信プロトコル」に準拠しています。

（２）ＪＣＡ

日本チェーンストア協会制定「取引先データ交換標準通信手順」に準拠しています。

（３）ＢＳＣ

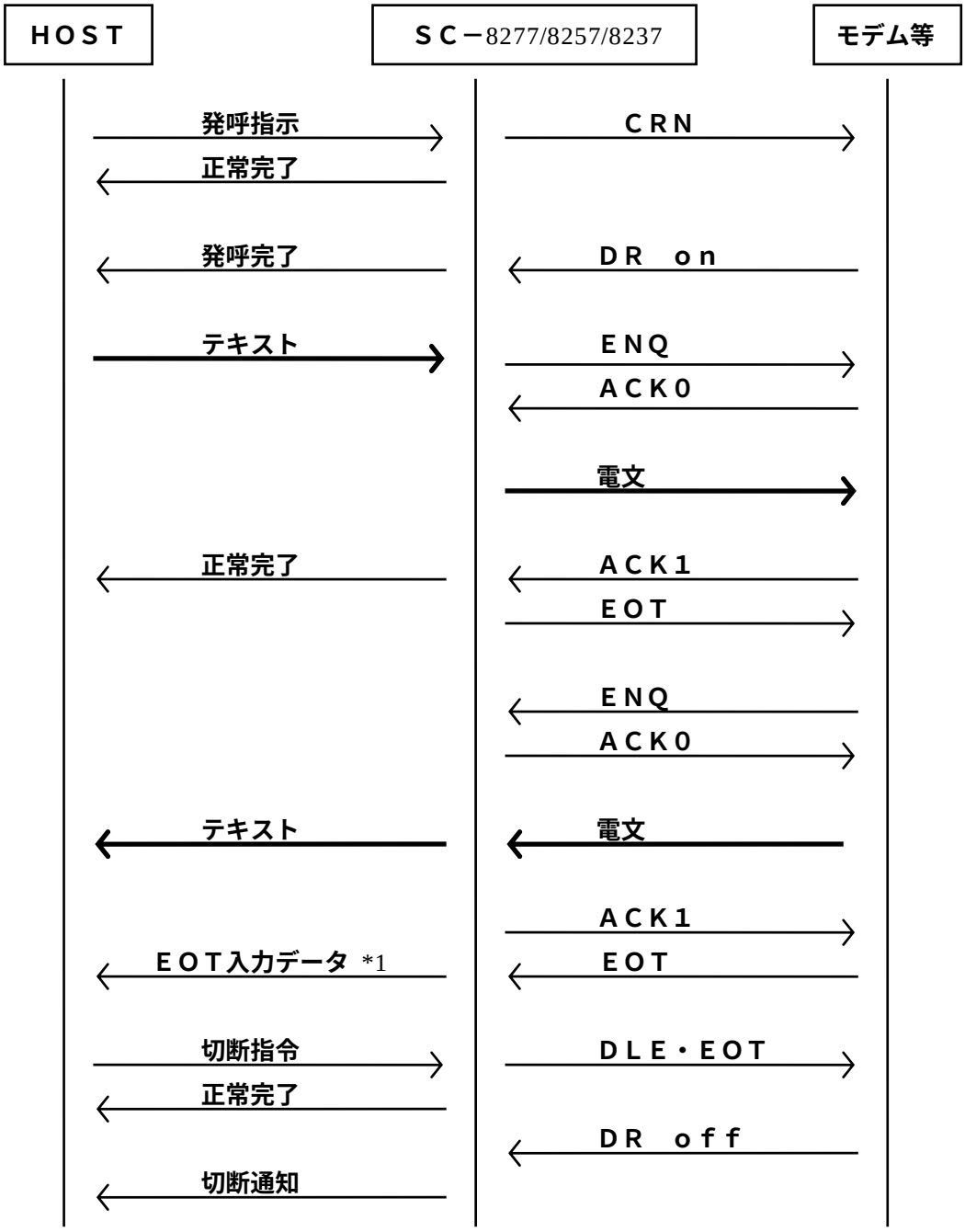
弊社の「ＳＴ標準通信手順」に準拠しています。

２．８　動作シーケンス

以下にＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７における動作シーケンスを示します。

（１）公衆接続　発信（ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７→相手機器）

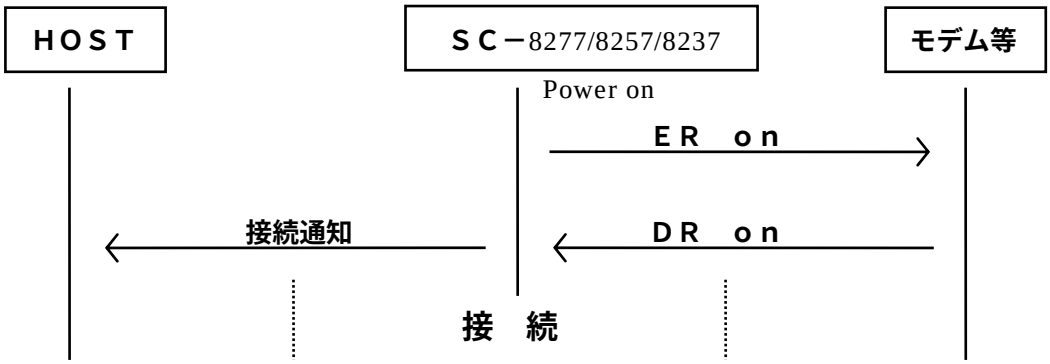
公衆回線接続の場合、２バイトのヘッダーを使用し、発信／着信、電文、切断をコントロールします。



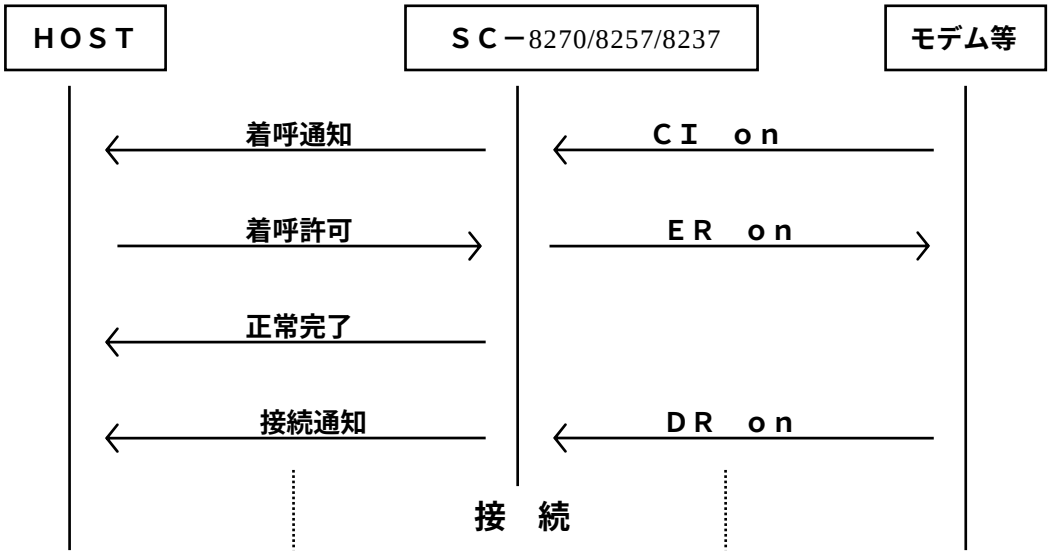
*1　ＢＳＣプロトコルではＥＯＴを入力しません。

（２）公衆接続　着信（ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７←相手機器）

着呼制御を行わない場合

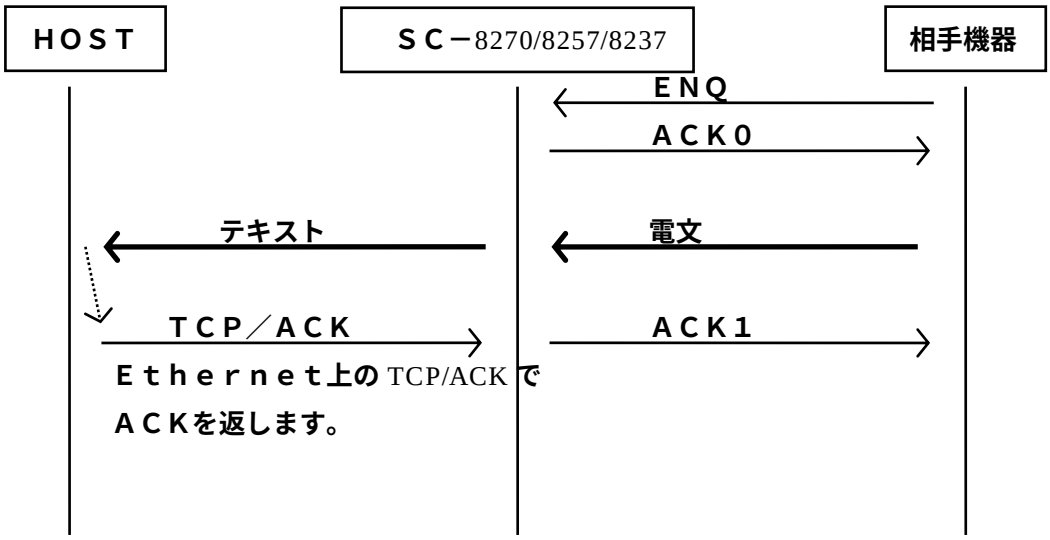


着呼制御を行う場合　この場合は接続許可の可否をＨＯＳＴがコントロールします。

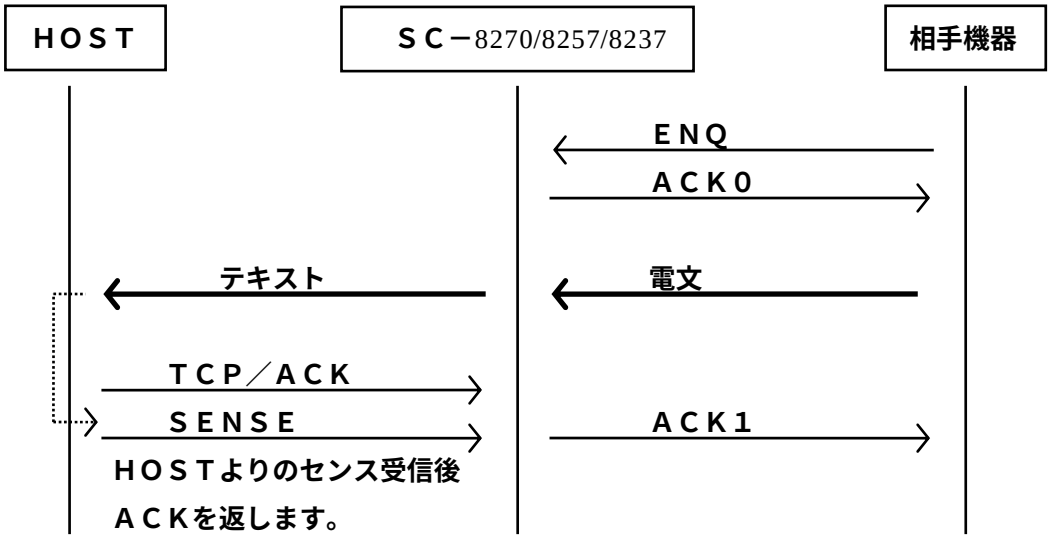


（３）電文入力

入力確認センスを使用しない場合



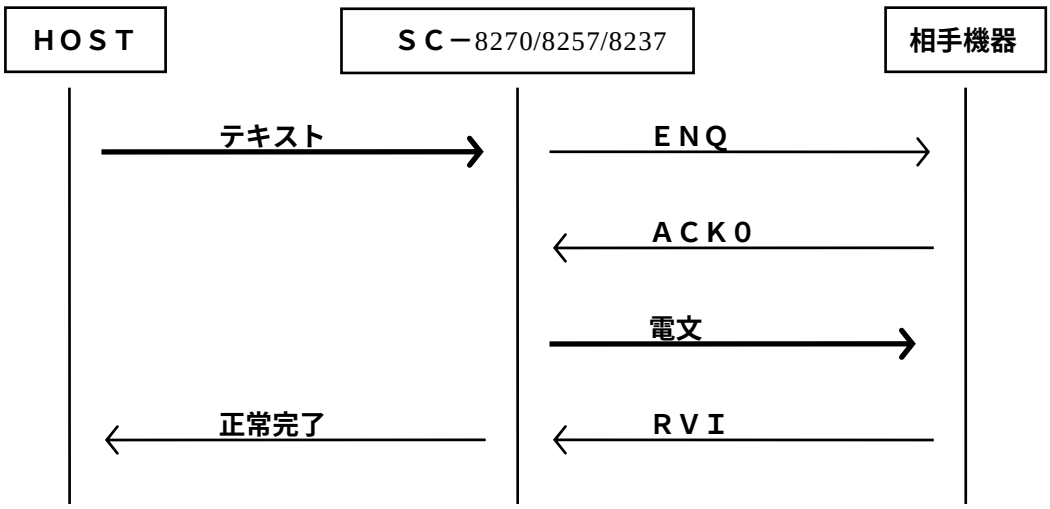
入力確認センスを使用する場合



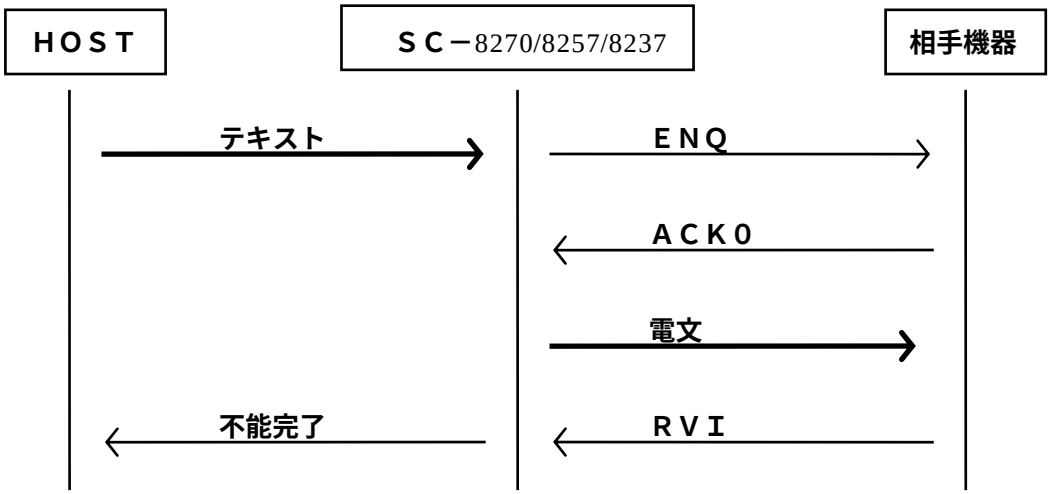
入力確認センスの使用時においては、ＨＯＳＴは入力されるデータ（発呼完了、着呼／接続／切断通知、テキスト（ＥＴＢ／ＥＴＸ）、ＥＯＴ）に対してセンスを返送する必要があります。

（４）電文送信（ＲＶＩ受信　ＪＣＡ／ＢＳＣプロトコル使用時）

ＲＶＩ受診処理　正常完了

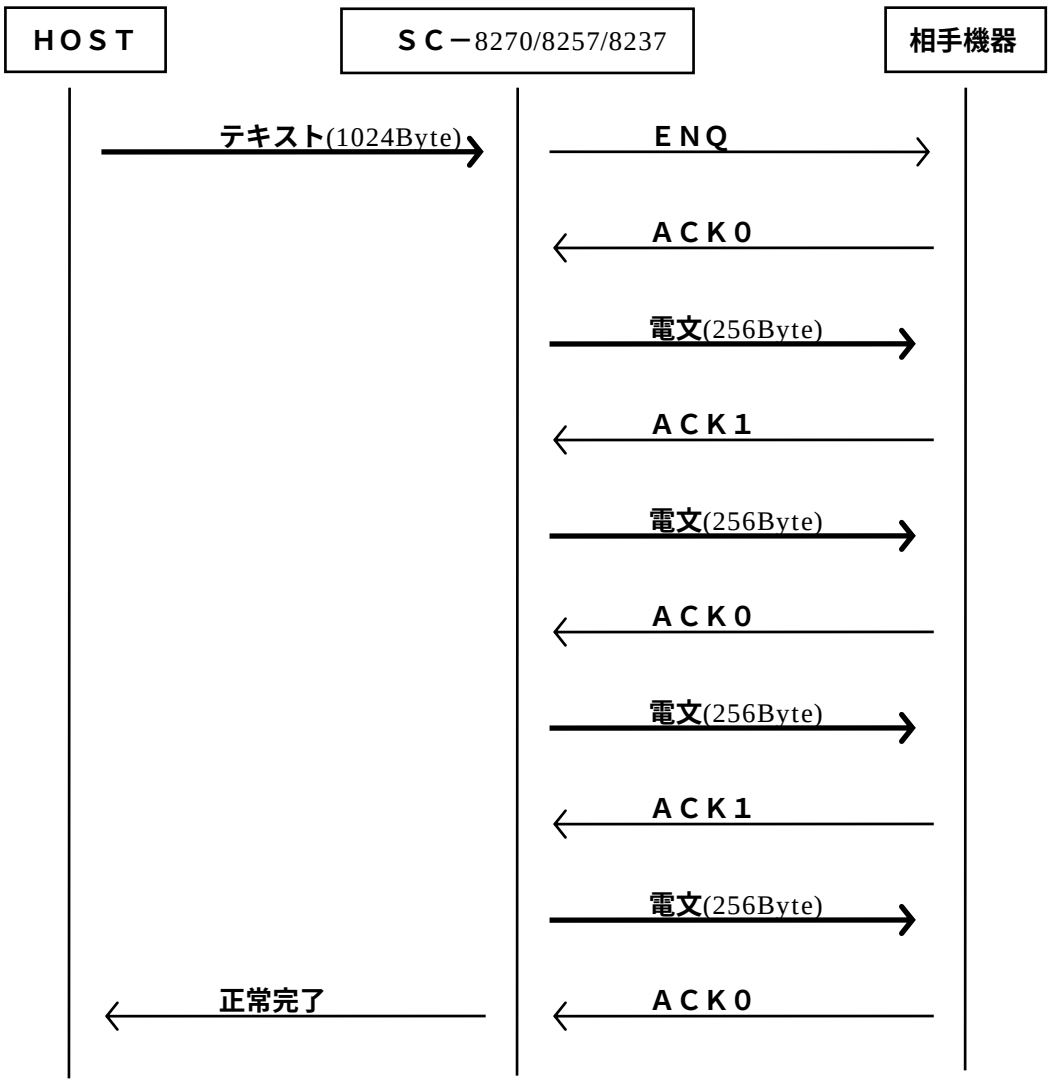


ＲＶＩ受診処理　不能完了



（５）電文送信（デブロッキング）

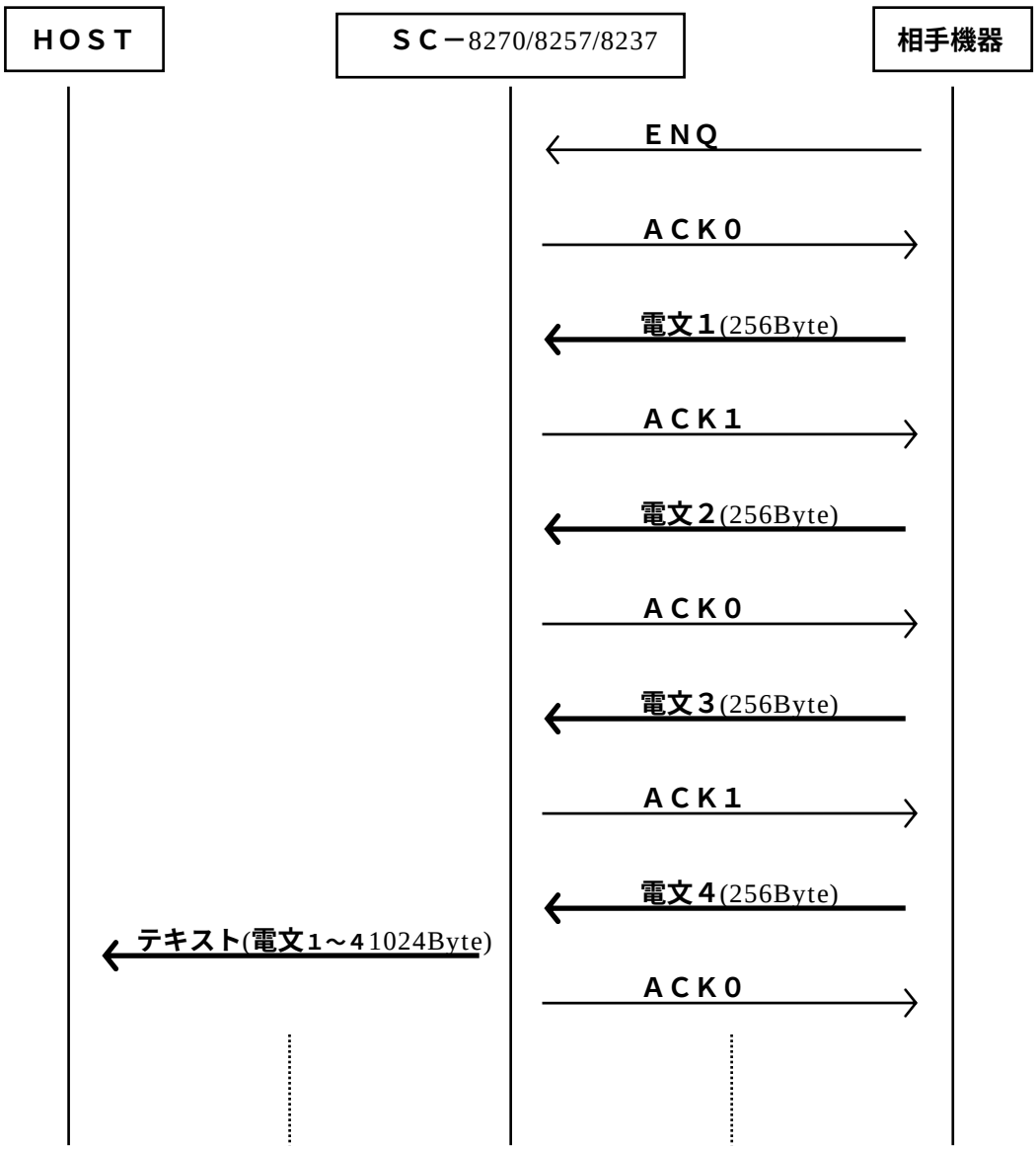
例　ＢＳＣ　デブロッキングサイズ　２５６バイト



正常完了は最後のブロック送信後の肯定応答受信後にＨＯＳＴへ送られます。

（６）電文受信（ブロッキング）

例　全銀　ブロッキング数　４



２．９　通信設定項目

（１）プロトコル

全銀／ＪＣＡ／ＢＳＣの選択が可能です。この項目が選択された時点で通信設定の全ての項目が表２－１の各プロトコルの標準設定値となります。

（２）通信速度

１２００ｂｐｓ、２４００ｂｐｓ、４８００ｂｐｓ、９６００ｂｐｓ、１９２００ｂｐｓ、４８ｋｐｂｓ、６４ｋｂｐｓ、１２８ｋｂｐｓが選択可能です。
伝送速度の制限は、２．２を参照して下さい。

（３）適用回線

専用線、公衆回線の別を選択します。

（４）透過／非透過

テキストのタイプを指定します。

（５）局タイプ

優先局、非優先局の別を選択します。

（６）ヘッダー

アプリケーションにてヘッダーを使用するか、否かを選択します。（３）の適用回線で公衆回線を指定した場合は、ヘッダー使用するのみ選択可能です。

（７）着呼制御

公衆回線設定の場合のみ有効な設定です。着呼制御ありを指定した場合は、アプリケーションの指示で接続動作が行われますので、ホストダウン時等に無駄な課金が防げます。

（８）着呼通知入力タイミング

公衆回線設定で着呼制御を行う設定の時のみ有効です。ＣＩ信号で着呼通知を入力する設定と、Ｖ．２５ｂｉｓの’ＩＮＣ’インディケーションで入力する設定が選択可能です。

（９）入力確認センス

入力確認センスを使用するを選択すると、アプリケーションの指示によりＢＳＣレベルのＡＣＫを送信します。これにより、データの送達確認が確実に行えます。動作シーケンスは３．７（３）を参照して下さい。

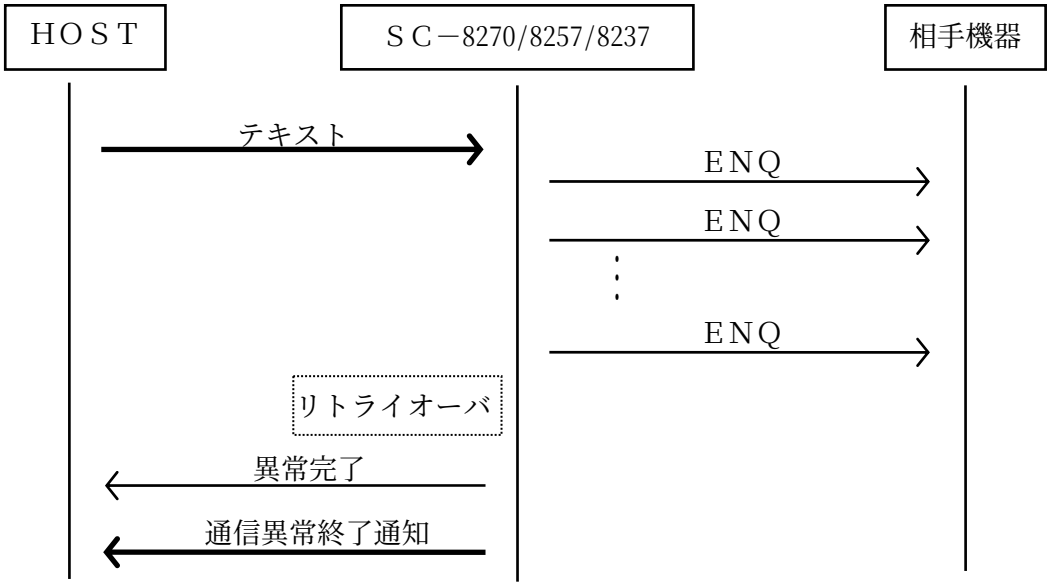
（１０）発呼完了ステータス

アプリケーションにてＵＳＴよりの発呼が失敗した時に詳細内容の通知が必要な場合、’追加’を指定して下さい。

（１１）通信異常終了通知

相手機器とのデータリンクレベルの異常を検知した場合に通信異常終了通知にて詳細情報を通知することが可能になります。

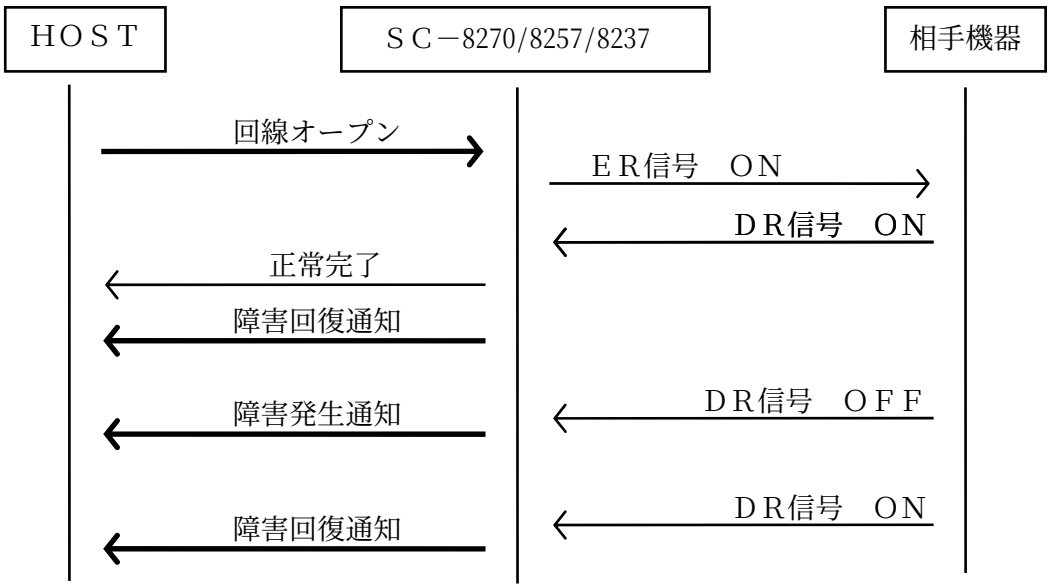
[シーケンス例]



（１２）オープン／クローズ制御

専用線時のみ有効となります。オープン／フローズ制御ありを選択した場合、ＵＳＴは初期状態でＥＲ信号をＯＦＦとし、ホストよりのオープン指令により、ＥＲをＯＮとします。また、相手機器のＤＲ信号のチェックを行い、障害発生通知（ＤＳＲ　ＯＮ→ＯＦＦ）と障害回復通知（ＤＳＲ　ＯＦＦ→ＯＮ）を入力します。

[シーケンス例]



（１３）全銀／ＪＣＡ自動切替

ありを指定すると受信電文の形式（透過／非透過）によって通信パラメータを全銀またはＪＣＡに変化させて通信を行います。また発呼指令のパラメータによっても変化します。変更するパラメータは以下のとおりです。

非透過電文時：ＥＴＸ列信、ＴＴＤ／ＲＶＩ使用、ＪＣＡ用マトリクス

透過電文時　：ＥＴＢ／ＥＴＸ混合列信、ＴＴＤ／ＲＶＩ不使用、全銀マトリクス

（１４）ＲＶＩ受信時処理

テキスト送信後ＲＶＩを受信した時の処理を選択します。正常完了入力または不能完了入力の選択が可能です。

（１５）着呼時のキャリー音送出、キャリー音送出時間

公衆回線設定時に有効です。キャリー音送出するを選択すると着呼時にＮＣＵに対して一定時間ＲＳ信号をＯＮとします。

（１６）Ｖ２５ｂｉｓ付加文字

この設定を行うと公衆回線設定で発呼時にＣＲＮコマンドの相手電話番号の末尾に１文字ＵＳＴで付加することができます。

（１７）送信時ＣＤ　ＯＦＦ検出

ＲＳの制御を行う設定の時に有効です。’する’を指定するとＣＤ信号がＯＦＦになるのを確認してから送信動作を行います。

（１８）送信ＳＹＮＣ数

送信時のＳＹＮＣの数を指定することができます。

（１９）伝送制御コード、誤り制御方式

伝送制御コードをＥＢＩＣＤＩＣ、ＪＩＳ８から選択することができます。

誤り制御方式方式をＣＲＣ１６、ＣＣＩＴＴ－０から選択できます。

（２０）ＲＶＩ、ＴＴＤ、ＷＡＣＫの使用

ＲＶＩ、ＴＴＤ、ＷＡＣＫそれぞれの使用、不使用の選択が可能です。

（２１）タイマー、カウンタ

データリンクレベルの各種タイマー、カウンタの設定が可能です。

（２２）ブロッキング、デブロッキングの設定

ブロッキング、デブロッキングを指定することができます。この指定を行うとＬＡＮ上のトラフィックとアプリケーションの負荷を削減できます。

（２３）ＲＳ制御

ＲＳ制御を行うか否かの選択が可能です。

以下の項目は、ＴＡＵ基板（Ｉ．４３０／Ｖ．１１０用）を使用した時のみ、使用可能です。

（２４）端末速度固定

本設定は、着呼制御ありの時のみ有効となります。

ＩＳＤＮ網を介して接続する端末の速度が、異なる場合に「端末速度を固定しない」を選択します。

相手端末速度毎にポートを用意する必要がないのでポート数の節約が可能となります。

この選択をした場合、ＵＳＴのポートに設定されている通信速度以上の端末の接続があれば、ＵＳＴで接続を拒否します。

（２５）自アドレス

自局の電話番号の設定が可能です。ダイレクトダイヤルイン機能が有効に使用できます。

（２６）自サブアドレス

自局のサブアドレスの設定が可能です。他のデータ端末と共存が可能となります。

Appendix-A（規約）

ＲＦＣ番号	Ｔｉｔｌｅ
７９１	Internet Protocol
７９２	Internet Control Message Protocol
７９３	Transmission Control Protocol
８２６	Ethernet Address Resolution Protocol

ＩＴＵ－Ｔ勧告	内容
Ｖ．２４	ＤＴＥ－ＤＣＥ Ｉ／Ｆ間の相互接続回路の規定
Ｖ．２８	ＤＴＥ－ＤＣＥ Ｉ／Ｆ間の電気的特性の規定
Ｖ．２５bis	自動起呼／自動応答手順についての規定

その他の規約	内容
全銀プロトコル	全銀協標準通信プロトコル
ＪＣＡ手順	取引先データ交換標準通信手順
ＢＳＣ	Binary Synchronous Communications

「空白」

ご意見・ご要望記入用紙

本書の内容・構成等、または製品について、ご意見、ご要望、お気づきの点がございましたら、
下記にご記入のうえ、ＦＡＸもしくは弊社営業担当にお渡しください。
なお、お寄せいただいたご意見等は、弊社にて随時利用させていただきますので、ご了承ください。

ＳＪ66620302-4
ＳＣ－８２７７
／８２５７／８２３７
機 能 解 説 書
ＢＳＣ系標準パラメータ編

平成　　年　　月　　日

ご芳名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

貴社名／ご所属＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご住所　〒＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

送付先　〒２７５－８５５８
千葉県習志野市茜浜１－１－１
セイコープレシジョン株式会社

ＦＡＸ　０４７－４７０－７０７７

［ご意見・ご要望］

＊＊＊　ご協力ありがとうございました。　＊＊＊

「空白」

「空白」

ＳＣ－８２７７／８２５７／８２３７
ネットワークステーション
機　能　解　説　書
（ＢＳＣ系標準パラメータ編）

発行年月日	２００８年　８月
版　　数	第 4.2 版
文書コード	SJ66620302-4

発行　　セイコープレシジョン株式会社

〒275-8558　　千葉県習志野市茜浜１－１－１
TEL　(047)470-7050　　FAX (047)470-7077